

## 介護とコミュニケーション

(原文)

新里 紀琳 (16 歳)

沖縄県

沖縄県立名護高等学校

「少子高齢化」という言葉を最近、私達はよく耳にしています。日本国内では、医療機関の発達、安全な食料と飲料水などの安心できる環境作りが、健康長寿の秘訣につながっていると思います。しかし「五十年後の日本の人口、四十パーセントは高齢者でしめる」というデータも出ています。これからの社会で、さまざまな問題に直面するでしょう。その中の一つとしてあげられるのが、職の人手不足です。この問題が、介護業界にも何らかの影響を引き起こす原因だと思っています。

私はテレビで介護用ロボットを見た事があります。このロボットが、おじいちゃん、おばあちゃんたちの介護をしてくれたり、話し相手になってくれるのは、とてもすごいと感じました。また、私はそういったロボットに興味があります。実際、近所のお店で外食したときに、お店の案内や人数確認をロボットがしていました。このロボット、便利だと思ったけれど、人と違って相手の温かい気持ちを感じられない…。とも思いました。もしも介護をする人が人じゃなくてロボットになる時代がくるとしたら、介護されるおじいちゃん達の気持ちはどう感じているのだろう、と考えてしまいます。私はその立場だと、少し寂しさを持ってしまいそうです。同じ人間だと、相手との理解やコミュニケーション、絆も得ることができると思います。ロボットには無い、人と人を繋ぐものが介護には必要だと思います。これは、介護だけでなく他のことにも言えるのではないのでしょうか。

人を介護する、人と接する職業はどれもコミュニケーションをとることが大切になってきます。私はインターンシップで障害者を支援する施設へ体験に行きました。利用者はそれぞれ、持っている障がい異なります。耳の聞こえない人や、目の見えない人、手足が不自由な人や発達障害を持った人、さまざまでした。また、一人一人、個性豊かな方法で、その一人一人の性格、特徴に合わせて、接していくことが大切だと学ぶことができました。私も、介護士の方に教わりながら、食事をあげたり、血圧や体温を測ってみました。耳の聞こえない方には、耳元で合図を試みたり、手の不自由な方には、口元までご飯を運んであげたり、脚の不自由な方には一緒に楽しくリハビリをしました。支援をするときに、上手く接するためには、一つ一つの小さな工夫が大切で、「人を支える」ことがどれだけ難しいか実感しました。しかし、利用者さんとの会話や、「ありがとう」の声、笑顔を見ることができたとき、とても嬉しかったです。コミュニケーションをとることは、人間にとって大切なものだと、この経験から得ることができました。

なので私は、介護士などの人手不足の問題を改善するために、介護用ロボットは便利だと思うけど、おじいちゃん達の心に親身になれるのは、私達人間しかいないと思っています。だから、高齢者への介護、コミュニケーションを良い形で取ることができる案を考えました。それは、保育園と介護施設を合体した施設を作ることです。介護士や園の先生も一緒になって働くことになるけど、子供が与える影響はすごいと思います。おじいちゃん達は、小さい子の笑顔を見るだけで自然と笑みがあふれると思います。また、高齢者が子供にお世話するような光景も見られると思います。子供達が話し相手になってくれるかもしれません。高齢者と子供の間、良い関係が生まれると、そこにコミュニケーションが働いているように見えます。この施設は、メリットだけではないですが、できない事は介護士や園の先生の手も借りることで、良いものになると思います。この施設は今までと違った考え方を私達に与えてくれるのではないのでしょうか。

私たち人間同士が築いていくコミュニケーション、これは、何十年後もずっと大切なものだと思います。